



「元気いきいき町民の集い」が開催されました！

2月1日、保健福祉支援センターこぶしにて「第17回元気いきいき町民の集い」が開催され、約70人が参加しました。

黒潮町では、在宅で自立して生活している90歳になられた方に「いきいき長寿賞」をお贈りしています（佐賀地域）。今年度の対象者は12人。うち4人が授賞式に参加し、町長から表彰状と記念品の授与がありました。受賞者の元気な姿は、町民の目指す目標となりました。受賞者を代表して、今西鶴夫さん（拳ノ川）が謝辞を述べ、「これから



も頑張っていきたい」と抱負を語りました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

その後の講演会では、講師に落語家の桂福車さんをお招きし、「幾つになっても若々しい心で」という演題で講演していただきました。歳をとっても「好奇心」や「欲」を持つことで生きがいとなり、長生きにつながるなど、笑いをまじえながら楽しくお話しをしていただきました。

参加者の多くから「受賞者のように長生きしたい」「講演は楽しい話で良かった」と感想がありました。（保健センター）

ケニア通信 No.2 レポート: 浜岡由衣 (黒潮町佐賀出身) ~ 青年海外協力隊 in Kenya ~

● 任地シアヤでの活動



私の職場です♪



ディスペンサリーと呼ばれる診療所のような場所☆

シアヤ(Siaya)は、ケニアの西側、ビクトリア湖やウガンダとの国境に近い場所にあります。大都会の首都ナイロビとうってかわって、とてもどかで穏やかな時間が流れています。しかし一方で、赤ちゃんや子ども、妊産婦の死亡率が高い、HIV/AIDSの患者数が多い、などの現状があります。また、ケニアの中では暑い方で、マラリア(蚊が媒体する感染症)の流行地域でもあります。

私の職場は、シアヤ県の保健所のような場所で、医師や保健師、地域開発オフィサー、栄養士などが保健マネジメントチームを作って、県全体の健康状態の改善のために頑張っています。私の仕事はこのチームのお手伝いです。

次回からは具体的な活動内容をお伝えします☆



● ケニアでは「握手」が大切

ケニアでは、あいさつがとても重要で、道ばたですれ違った見知らぬ人からもしょっちゅうあいさつされます。そのあいさつで大切なのが“握手をする”こと。知らない人とでも、とにかく握手をしまくります。最初は、感染症大丈夫?とか心配していましたが、今は慣れて、握手をすることを楽しんでます♪

※JICAでは、青年海外協力隊員を募集します!詳しくは19ページをご覧ください。